「思い出に残る旅」

「君ってハーフ?どこのハーフなん?」と初対面から質問する人と、私はなるべく付き合わないようにして来ました。

私には「親友」と呼べる友達はいます。家族を除くと、私が心から信頼できるのは彼らだけです。街を歩けば「ガイジン」と言われ、初対面の人からは自分の出生に関する数々の質問をされてきたため、私は友人たち以外を信頼することはありませんでした。多くの場合、そのような質問をしてくる人は私の外見的特徴だけにしか興味を示しませんでした。そのような人と付き合わなくていいように、不愉快な思いをしなくていいように、私は防衛線を張りました。それが〝よくある質問〟をするかしないかです。

私の趣味は自転車でツーリングをすることです。五年前に自転車ツーリングを始めたときから、いつか日本諸島（四島）を自転車で一周したいと思っていました。今から3年前、その目標の第一歩として選んだのが四国でした。地図上で一番面積が小さかった四国を、私は最初の目標にしました。

旅の出発点は、香川県の高松市でした。出発の日は朝から雨が降っていましたが、雨具を着て高松市から徳島市まで走りました。

二日目の朝はとても寒く、私はテントの中で朝食を食べました。朝食を食べ終え、外に出てテントを片付けようとしたとき、二台の小型トラックが近づいて来ました。そのトラックに乗っていた人たちは工事関係の人でした。私がテントを張った近くが作業現場だったので、私は邪魔にならないように急いで出発の支度を始めました。私が支度をしていると、二台のうちの一台がどこかへ走り去り、また戻って来ました。そして中からおじさんが出てきて

「兄ちゃん、朝はもう食べたのか?これやるよ」

と言って、メロンパンと温かい缶コーヒーをくれました。出発直前だったので、私はそれをすぐには食べずに持って行くことにしました。後で飲んだコーヒーは、少し温かかったような気がします。もう冷めていたんですけど…。

三日目、私は高知県に入りました。徳島県の南部からアップダウンの激しい道を走って来たので、平地が多い高知の道はとても走りやすかったです。この日は室戸岬の近くの砂浜にテントを張ることにしました。

四日目は朝から雨でしたが、日数が限られた旅でしたので休むわけにはいきません。雨の中を走るのは、晴れの日の倍の体力を消耗します。それでも走ることを決めた私は、その日の目的地を高知県の窪川にしました。

雨のため速く走れず、窪川に着いたのは暗くなってからでした。初めての土地だったので、どこにテントを張ったらいいかわかりませんでした。暗い中しばらく走っていると、小さな川を偶然みつけました。そこはテントを張るには良い場所ではなかったのですが、とにかく休み

Copyright(C) 2003 Hyoue Okamura All Rights Reserved. www.kreuzungsstelle.com

たかったので私はそこにテントを張ることにしました。
テントを張る準備を始めようとしたとき
「そんなとこで寝るくらいなら私たちの家に来なさい」
と近くを通りかかったおじいさんに言われました。このとき私はとても疲れていたので、その申し出を受けることにしました。奥さんと散歩中のその人は、私がおかしな場所にテントを張ろうとしたのを見て、家に招くことにしたのだと後で話してくれました。 家に行って晩御飯をご馳走になっているとき、近所のおばあさんが遊びに来ました。そのおばあさんを交えて色々話をしているとき、その人は私に言いました。
「あなたがこの人達と出会えたのは、あなたの普段の行いが良かったからですよ」
と。私はここに来るまで、追い抜いたお遍路さんや出会った人には必ず挨拶をしていました。普段の行いが良かったというのは、このことだと思いました。
「親切にして貰えたのは、お遍路さんに挨拶をしてきたからだ。心を開いて人と接していれば、必ず誰かが助けてくれる。この人たちに出会い、そして助けて貰えたのは、心を開いたからなんだ」
と、私はこのとき思いました。
その六日後、私は旅を無事終えることが出来ました。高松市から高松市までおよそ一三〇〇キロの行程を、途中少し自転車が故障したりしたものの、十日間で無事に走ることが出来ました。
この旅で会った人は、誰も私に「ナニ人?」とか「ハーフ?」とか聞きませんでした。「どこから来た?」と出身地(都道府県)を尋ねるだけで、それ以上のことは何も聞きませんでした。こんな経験は、生まれて初めてのことでした。生まれて初めて、誰にも「ナニ人?」と聞かれなかったのです。
多くの人に助けられたから、私は無事に旅を終えることが出来ました。
「人は生きているのではなく、生かされている」
この旅を通して私はそう思うようになりました。今では「君ってハーフ?どこのハーフなん?」と初対面から質問する人とでも私は付き合うようになりました。はじめから人柄を決め付けるのではなくよく付き合ってから人柄を判断するようになりました。私の考え方や人の見方を大きく変えた旅、それが四国の旅でした。

二〇〇三年二月七日

岡村 兵衛

Copyright(C) 2003 Hyoue Okamura All Rights Reserved. www.kreuzungsstelle.com